

# 都市再生整備計画（宇都宮中央地区）事後評価の概要

## （1）計画概要

【地区名】 宇都宮中央地区  
 【面積】 254ヘクタール  
 【交付期間】 平成17年度～平成21年度（五カ年間）  
 【交付対象事業費】 約48億円（国比率40%）  
 【区域】 馬場通り1丁目～4丁目，中央本町の全部 その他

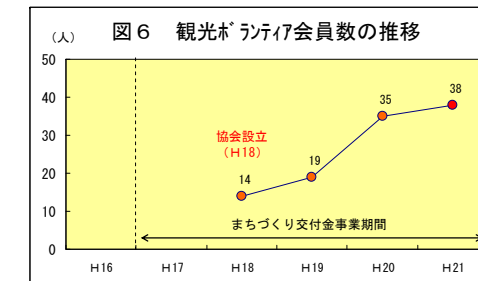
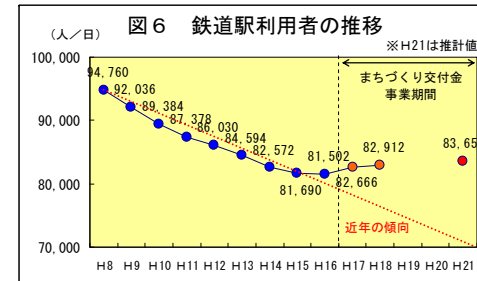
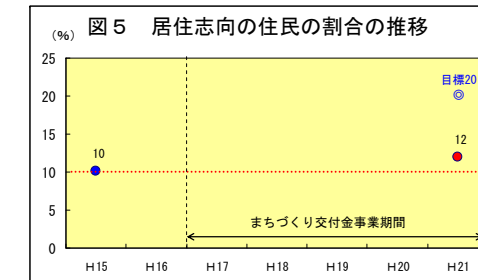
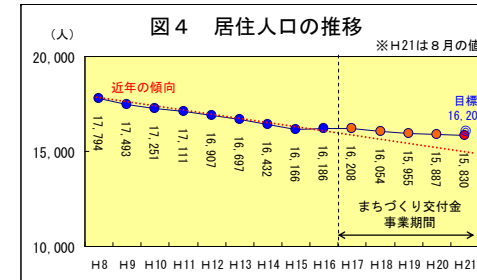
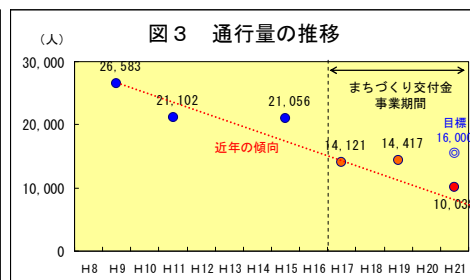
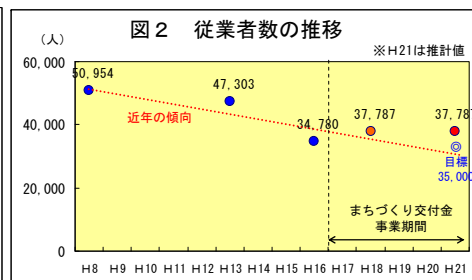
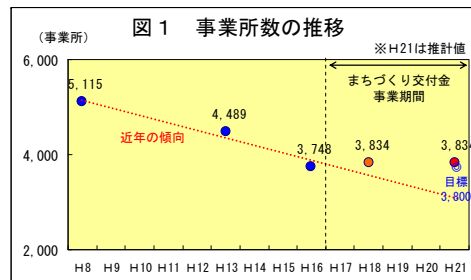
## （2）まちづくりの目標

【大目標】 中核都市宇都宮にふさわしい賑わいと高次な都市機能を備えた多様性のあるまち  
 【小目標】 産業が活発に交流し，活気ある都心づくり  
 宇都宮らしい個性と景観のある顔を持った都心づくり  
 市民が豊かに生活し，交流し合う賑わいのある都心づくり  
 高度な都市活動を支える都心づくり

## （3）目標の達成状況

	単位	従前値	目標値	事後評価	備考
事業所数	事業所	3,748 (H16)	3,800 (H21)	3,834	減少に歯止めがかかった
従業者数	人	34,780 (H16)	35,000 (H21)	37,787	減少に歯止めがかかった
通行量	人/日	15,679 (H16)	16,000 (H21)	10,038	事業期間中に一時微増に転じたが，いまだに減少傾向にある
居住人口	人	16,186 (H16)	16,200 (H21)	15,830	減少傾向が穏やかになっている
居住志向の住民の割合	%	10 (H15)	20 (H21)	12	居住志向の割合は微増している
鉄道乗降客数 <sup>注)</sup>	人/日	81,502 (H16)	—	83,650	増加に転じている
観光ボランティア会員数	人	—	—	38	ボランティアとして活動する市民が増えている
その他	オリヅクア等で市民や商店街による賑わいの創出が図られている オリヅクアや城址公園が観光ボランティア等の活動の場として利用されている				

注) 鉄道乗降客数，観光ボランティア会員数は，当初設定した数値目標以外の指標（参考値）



## （4）実施過程の評価

【モニタリング】 事業進捗状況や指標達成状況等の確認，今後の対応方針等を検討（H21.7）  
 【住民参加プロセス】 みちづくり勉強会，イルミネーション事業や「よみがえれ！宇都宮城」市民の会など  
 【持続的なまちづくり体制の構築】 「よみがえれ！宇都宮城」市民の会や宇都宮シティガイド協会

## （5）まちの課題の変化

- 産業の衰退に改善の兆しがみえてきたが，中心商業エリアでは依然として空き店舗数が増加
- 拠点広場の整備等により，中心商業地のメイン通りの通行量は，事業期間中に一時微増に転じたが，社会経済情勢の影響もあり，いまだに通行量は減少傾向にある
- 都心居住促進策等により，居住人口は減少傾向にあるものの，その傾向は穏やかになった
- 賑わい創出や回遊性向上策等により，居住志向が微増している
- 低炭素型の環境にやさしいまちづくりを推進するため，多様な交通手段によるアクセス性の向上等により，過度な自動車依存からの脱却を図る必要がある
- 中心市街地に愛着を感じる傾向が低く，まちの没個性化が中心市街地の衰退の要因となっている

## （6）今後のまちづくりの方策

まちの課題	まちづくり方策
中心商業地の再生	中心商業エリアの魅力を高め集客力の増強を図る
来街者の増加	市民と団体等と連携した面的な賑わいの創出を図る
居住人口の増加	生活空間の形成によるさらなる都心居住の促進を図る
過度な自動車依存からの脱却	多様な交通手段によるアクセス性の向上，自転車を含めた公共交通等の利用促進による，環境にやさしいまちづくりに取り組む
個性の創出	地域の資源を活用した個性と楽しさが溢れる中心市街地を創出する